

## 個人山行報告書

通算山行NO	NO. 1377	報告者	後藤隆徳
年月日	2009年08月24日(月)～26日(水)	2万5千	仙丈ヶ岳
山名	仙丈ヶ岳(3033m)		
体力度=3・普通 技術度=3・普通 道標=ある 駐車場=ある トイレ=ある 展望度=素晴らしい 三角点=二等三角点 点名=前岳			
<b>鹿柵ボランティアと快晴の山</b>			
コース とタイム	25日=北沢峠9:45-馬ノ背ヒュッテ-作業12:30~16:00- 馬ノ背ヒュッテ(泊) 26日=作業7:00~9:30-仙丈ヶ岳11:00-北沢峠14:00		
標高差	上り=北沢峠2030m~仙丈ヶ岳3033m=約1000m 下り= 同上		
参加者	後藤隆徳、(清水准一、塩沢久仙=南アルプス芦安山岳館館長、環境省職員 設置業者)ほか、全約40名		



近年、鹿の山岳植物食害は低山から亜高山・高山帯に及んでいる。その範囲は、丹沢・安倍奥・南アルプスに広がり最近、北岳でも食害が報告されている。

素朴な疑問として鹿がそんな所まで何故？要するに生存頭数が増え、餌がなくなったのだ。餌は主に高山植物で、マルバダケブキ以外の植物は殆ど食糧にされる。

丹沢など、檜洞丸のバイケイソウは非食だが、今回の仙丈ヶ岳は先端が見事に食されていた。一説では、秋になると毒素が減って、食の対象になるという。

では、何故鹿は増えたのか？推測されるのは、1・狼などの天敵がいなくなった。2・狩猟者が高齢で減った。3・温暖化で冬が厳しくな

く、自然淘汰が少なくなった。

そんな訳で現在、環境省・各県などが各地に食害防止の「鹿柵」設置を行っている。しかし、3km近い高所の場合、設置されている柵は、当然冬の積雪の影響が大きく、毎年「雪害」が発生し、随時「補修」が必要となる。環境省はボランティアなど募り、鹿柵補修を行っているが、今回初めて参加した。

標高2kmの北沢峠を出発。ここを夏訪れるのは、初めてかも。今回は芦安ファンクラブの元会員・清水君、「南アルプス芦安山岳館」館長の塩沢さんも一緒。補修メンバーは、環境省職員数名・業者数名・ボラ数十名と、総勢40名ほど。

私たちボラは芦安口から参加だが、今回の補修地は山梨・長野県境で正確には長野県側。そんなこともあり、長野県の戸台口からも大勢のボラが参加していた。

馬ノ背ヒュッテに着き、2680m付近の柵場で作業。かなり広い柵場が3ヶ所あ

る。柵は、2 mほどの支柱に3 mmほどのワイヤー入り網を張ってある。雪の重量で支柱は折れ、網は切れ、網を掛けてある最上部の6 mmほどの鉄アングルは、完全に伸びきっている。凄まじい雪の力だ。

まず、地上2 m、地下1 mほどの6 C m×6 C mグラスファイバー製の折れた支柱を交換する。地下1 m入っているので抜くには中々の力仕事。

その後は、最上部のアングル交換。これもアングルが曲がり、ネジが回らず苦勞。しかも2 m上だから、清水君が「脚立」になり、軽量のボラが肩に乗って作業。1日目は16時終了。小屋外で交流会。焼津の静岡県職が上げた「磯自慢」が美味かった。

2日目は、主に網の補修で9時半終了。時間があるので頂上に向かう。雲ひとつない快晴。冬は何回も上っている仙丈だが、記憶では夏は初めて。1976年冬、縦走した「仙塩尾根」(せんえんおね)と地蔵尾根が懐かしかった。

#### まとめ

1. 鹿柵は暫定対策。「鹿ピル」などの抜本的対策を早急にしないと最悪の結果になる。
2. ボランティアは、北沢峠までのバス代、小屋宿泊代が支給された。ただし、環境省職員、業者は有給。給金はいらないが、車の燃料代は欲しいところ。
3. 鹿柵網は、ナイロン・針金・ワイヤー入りの3種類がある。自然の中の鹿柵は、不自然で見苦しい。

ここの鹿柵網は  
ナイロン製



快晴の仙丈ヶ岳

マルバダケブキしか残っていない

